

ドローンやインターネットで生産管理

林業効率化山ノ内で検討会

信州大や北信州森林組合 町夜間瀬の森林で開いたⅡ号(中野市などは15日、小型無人機ドローンやインターネットなどを使った生産管理システムの現地検討会を、山ノ内



有、生産性の向上や安定供給を図る狙い。伐採した丸太を元に販売をかける従来の林業の姿を、細かな受注を受けてから木を切り出す効率的な方式に変えようとしている。

北信や木曽地域、伊那市などの林業関係者約50人が見学。信州大山岳科学研究所(南箕輪村)の加藤止人教授(61)らがドローンを使った上空からの資源量把握を実演。ドローンが撮影、レーザー照射で得た画像を解析し、樹種や木の大きさを自動算定する独自技術を解説した。

ドローンで把握した位置情報を活用してバックホーを誘導し、伐採作業を簡略化する技術も公開。見学者は、伐採用機械が木を切るのと同時に送る丸太のデータが、自動で蓄積されるのをパソコン画面で確認した。北信州森林組合の堀沢正彦業務課長は「森の『在庫』を『見える化』すれば、買いたいと思う人が増えるのではないか」と話した。